

## 第48回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」募集要項

福島県では、「水の日」（8月1日）及び「水の週間」（8月1日～7日）の行事の一環として、広く県民が水に関する関心を高め、理解を深めることを目的として、本県の次代を担う中学生を対象とした水の作文コンクールを実施します。

### 1 テーマ

「水について考える」（題名は自由）

水は、私たちの生活に欠かせないものであり、あらゆる生命の源になっています。

福島県では、尾瀬、猪苗代湖、阿武隈川などの豊かな水環境が様々な生命を育んでおり、私たち県民は、水道水はもちろん、各地の湧き水など、おいしい飲み水として水の恵みを受けています。また、農業や発電などにも使われ、私たちの暮らしを支えています。しかし、水は私たちの生活を豊かにするだけでなく、台風による洪水や水不足といった困難を引き起こすこともあります。

皆さんも、これまで家庭や学校で様々な経験をし、水について学んできたと思います。

皆さんにとって、水とはどんな存在でしょうか。この機会に自分の考えを作文にしてみましょう。

※別表「経験や学んだことのイメージ」を参考としてください。

### 2 応募資格

令和8年度に福島県内に在学する中学生

### 3 原稿

400字詰め原稿用紙4枚以内。

日本語で表記された未発表の個人作品（手書き、電子データどちらも可能）に限ります。

### 4 応募締切日

令和8年1月30日（金）到着分有効

### 5 応募方法

（1）作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に題名、学校名（ふりがな）、**令和8年度時点の学年**、氏名（ふりがな）を記入のうえ、学校経由または直接応募してください。

（2）学校経由の応募の場合、「応募者一覧表」を添付してください。

### 6 応募及び問い合わせ先

〒960-8670 福島市杉妻町2-16

福島県企画調整部土地水対策室

電話：（024）521-7123

メール：tochi\_mizu@pref.fukushima.lg.jp

## 7 審査

### (1) 全日本中学生水の作文福島県コンクール（以下「県コンクール」という。）の審査

令和8年5月下旬までに審査を行い、入賞作文（優秀賞、入選）と学校賞を選定します。学校賞は、優秀な作文を多数応募した学校または県コンクールに積極的に取り組んだ学校を選定します。

なお、県コンクールにおいて優秀賞に選ばれた作文については、「全日本中学生水の作文コンクール」（以下「全国コンクール」という。）の本県代表作文となります。

### (2) 全国コンクールの審査

令和8年7月上旬に、国で各都道府県の代表作文が審査され、入賞作文が決定となります。

## 8 賞及び賞品

### (1) 県コンクール

・優秀賞	5編以内	賞状、副賞
・入選	10編以内	賞状、副賞
・学校賞	若干校	賞状
・参加賞	応募者全員	記念品

### (2) 全国コンクール

・最優秀賞	1編	賞状、副賞（内閣総理大臣賞）
・優秀賞	8編程度	賞状、副賞（農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞ほか）
・入選	30編程度	賞状、副賞
・佳作	応募作文	記念品

## 9 入賞者発表

### (1) 県コンクール

令和8年5月下旬に、原則、所属学校を通じて入賞者へ通知します。

### (2) 全国コンクール

令和8年7月上旬に、原則、所属学校を通じて入賞者へ通知します。

## 10 賞状等の授与

### (1) 県コンクール

入賞者には賞状及び副賞を、学校賞受賞校には賞状を授与します。

### (2) 全国コンクール

最優秀賞及び優秀賞の受賞者は、国土交通省から「水の日」の行事に招待され、賞状及び副賞が授与されます。入選者等へは、賞状及び副賞又は記念品が、原則、所属学校を通じて送付される予定です。

## 11 作文集

県コンクールの入賞作文を集めた作文集を作成し、応募校及び入賞者へ配布します。また、福島県土地水対策室のホームページに掲載します。

## 12 応募上の注意

- (1) 応募作文の返却は行いません。
- (2) 応募作文に記載の個人情報、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。  
応募者の同意なく、利用目的を超えて利用することはありません。
- (3) 応募作文の使用権は、福島県に帰属します。  
ただし、全国コンクールに応募した作文の使用権は、内閣官房水循環政策本部及び国土交通省に帰属します。
- (4) 入賞作文については、作文のほか、記載された学校名・学年・氏名を福島県土地水対策室のホームページや作文集に掲載するほか、報道機関に提供します。
- (5) 受賞後に、不正（他人の作文の盗用など）が発覚した場合は、賞を取り消すことがあります。なお、生成AIによる生成物は認めません。

## 13 その他

主 催：福島県

後 援：福島県教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局、  
福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、  
ふくしまFM

(別表)

経験や学んだことのイメージ

項 目	イメージ
・ 自然 ・ 植物  などから	家の裏山とそこを流れる沢水から考えたこと
	ふるさとの自然や水生生物から水について考えたこと
	家族で身近にある川や湖に行き、水について考えたこと
	雨水や山に積もった雪から水について考えたこと
・ 日常生活 ・ 学校生活  などから	毎日飲んでいる水、料理に使う水、自宅で使っている井戸水や近所の湧水から考えたこと
	夏休みに家族で海に行った思い出、友達と川で遊んだ経験、キャンプの経験などから水について考えたこと
	水質検査や水生生物採取などの環境学習活動から水について考えたこと
	海外旅行に行き、海外と日本の水の違いから水について考えたこと
	ダムや堤防、浄水場や下水処理場の施設見学を通して水について考えたこと
	川や湖（阿武隈川、夏井川、猪苗代湖など）の清掃活動から水について考えたこと
・ 見たこと ・ 聞いたこと  などから	農家の方が米づくりで使っている水から考えたこと
	水にまつわることわざや格言、地域に伝わる歴史や風習から水について考えたこと
	水が支える私達の暮らしと未来に向けた水の使い方について考えたこと
	工業用水（ものづくり）や水力発電など水の使い方について考えたこと
	海洋プラスチック汚染など、環境問題のニュースから水について考えたこと
	地球にある水のことが書いてある本を読んで考えたこと
災害などから	大雨や洪水（水害）から水について考えたこと
	震災から水について考えたこと
	断水の経験から水について考えたこと